2021 年 12 月 27 日

森と海の自然科活動案内・テーマ「川里」

離宮八幡宮から桂川・宇治川・木津川を渡り石清水八幡宮

石清水八幡宮の名物走井餅は江戸時代中期の明和元年（1746 年）に大津で創業、湧水「走井」を用いて、初代の井口市郎左衛門正勝が餡餅を作ったことに始まるそうです。走井は、成務天皇の産湯に用い賜るほどの名水でした。

刀の荒身を模した独特の形は平安時代に名をはせた刀鍛冶・三條小鍛冶宗近が走井で名剣を鍛えたという故事にちなみ剣難に逃れ開運出世の縁起を担いだものと伝えられている。

安藤広重「東海道五十三次」の大津宿にも描かれた大津名物走井餅は、明治 43 年（1910 年）6 代井口市郎左衛門の四男嘉四郎によって、名水で名高い石清水のふもとへと引き継がれた。八幡に引き継がれほどなく大津の本家は廃業、荒れ果てていたのを惜しみ大正時代の日本画家の橋本関雪が別荘とし、その後月心寺となった。井口家の生家では、走井餅発祥のその場所には今も滾々と水が湧き出ていると書籍に書かれているので見に行ってきました。京阪京津線の追分駅から国道 1 号線を京都方面に 500m程行ったところに月心寺があり、今は精進料理の頂ける店となっています。安藤広重の「大津宿」に描かれた走井水が湧き出ている井筒が今も見られ水が湧いている。残念ながら公開していないので塀越しに見てきました。名水について色々調べていくうちに、石清水八幡宮には数ケ所湧き水が出ている井戸があることや淀川をはさんだ対岸の JR 山崎駅近くに離宮八幡宮という石清水神社の元社があり、その神社にも石清水の名水が湧き出ているとのことです。

枚方から高槻駅を経由しＪＲ山崎駅近くの離宮八幡宮を訪れました。離宮八幡宮の正面門の右に「国家安泰　国土平安祈祷書」と書かれた離宮八幡宮の社伝がかかれた説明板があります。

社伝によるとこの離宮八幡宮は石清水八幡宮の元社にあたり八幡大神を祭神とする神社で、貞観元年（859 年）清和天皇がご神託により国家安泰のため宇佐神社から分霊し平安京の守護神として奉安することとし、その時に九州に遣わされた大安寺の僧行教が帰途山崎の津（山崎の渡しがあった津）で神降山に霊光を見、その地より石清水の湧いたのを帰京後天皇に奏上したところ、国家鎮護のため清和天皇の勅命により「石清水八幡宮」が建立されたのが始まりと書かれています。

その後、嵯峨天皇の離宮｛河陽（かや）離宮」跡であったので、社名を離宮八幡宮とした。また社伝には毎年 4 月 3 日に勅使がまず当社に詣でた後、淀川を船渡して男山に参拝する。これが「日使頭祭」の起こりである。室町時代には五十隻もの船が渡御する大祭礼であり、京都賀茂神社の葵花をかざす祭りが「北祭」と呼ばれたのに対して油長者が藤の花をかざす「南祭」と称えられる豪華を極めた。２つの神社の由緒はほぼ同じであるが、同時期に 2 つも神社が建立されるのは考えられなとする説や、離宮八幡宮は南北朝時代から室町時代の初めに成立したとみる説もあります。川を挟んで同じ八幡宮と名のつく神社があるのも不思議です。名水が湧き出るためこの近くにウィスキー会社のサントリー工場があったり水を多く必要とする染色工場などがある。また、近くには後鳥羽天皇所縁の離宮跡に隠岐、阿波、佐渡に流された天皇を弔うために建てられた水無瀬神社があり名水が湧き出ている。

平安時代後期となり、山崎の津として栄たこの地の人は荏胡麻油の油絞りの道具を考え出した者（離宮八幡宮の神官で神示を受けたとする人）が製油を始めました。当初は対岸の石清水八幡宮の灯明用の油として神社仏閣に奉納されていたが次第に全国へと広がった。油座として幕府・朝廷の保護の下、大山崎油座としての油の専売特許を持ち栄えていきました。

今回のコースは離宮八幡宮から桂川・宇治川・木津川を渡り石清水八幡宮までの散策です。河川敷歩きは風も強く寒いことも予想されますので、防寒対策を忘れないようにお願いします。

記

１：日　　時　　2022 年 1 月 20 日（木）　阪急大山崎駅改札口集合　10 時
２：目　　的　　三川合流の展望見学、大山崎瓦窯跡見学、枚方大橋から御幸橋間の渡し場跡を巡り
３：持ち物　　弁当、水筒、マスク、雨具、防寒具、ストック、双眼鏡等々
４：行　程　　阪急大山崎駅・・西国街道・・離宮八幡宮・・JR 山崎駅前・・山崎院跡・・宝積寺・・展望地・・旗立松・・山崎聖天・・大山崎瓦窯跡（昼食）・・山崎津・・西国街道・・国道 171 号線・・小泉川・・狐の渡し場跡・・河川敷歩き・・天王山大橋・・桂川・・宇治川・・木津川・・京阪石清水八幡宮駅（解散）
５：行程距離　　約 10ｋｍ（天王山山頂の途中にある旗立松まで登ります）　4 時間
６：関係資料（別紙参照）